

# 飯山市ふるさと館 企画展 のお知らせ



**奥信濃飯山の瀬戸物・唐津物**

6月25日(水)～8月3日(日)

◇入館料：大人 200円 小中学生 100円  
※市内小中学生と同伴の保護者は無料  
詳しくは飯山市ふるさと館 (Tel. 67-2030) まで!

飯山市ふるさと館

飯山市美術館

ふるさと飯山が生んだ東洋史の世界的権威

**宮崎市定の世界展**

～先生所縁の資料と  
コレクション古地図で振り返る～

■期間：8月12日(火)～9月7日(日)  
午前9時～午後6時【月曜休館】

■場所：総合学習センター飯山市ふるさと館

■入館料：おとな 200円 小中学生 100円  
桂蔭会発行のチラシ持参で無料  
市内小中学生と同伴の保護者無料

■お問い合わせ先  
飯山市ふるさと館 電話 67-2030

宮崎市定氏(1901～95):秋津大久保出身。飯山中学(現飯山北高)から旧制松本高校、京大文学部卒。京大文学部教授として東洋史学、特に中国史を専門とした。昭和33年日本学士院賞、平成元年文化功労賞受賞。平成3年、飯山市名誉市民に。

ふるさと館・飯山北高等学校桂蔭会共同企画展



マイ★  
オピニオン  
意見・私見

## 「地球を救い隊」

外様地区専門部員 市村 吉輝

最近、自然災害が多発しているなど感じるのは私だけでしょうか。ミャンマーサイクロン、四川大地震と大災害が近年多発しているように思えます。

日本でも、局地的豪雨や一番新しいところでは岩手大地震が発生しました。

自然災害の中でもちよつと地震について考えてみましょう。ちょうど1年前、中越沖地震でこの飯山の地も大きく揺れたのは皆さんの記憶にも新しいことだと思えます。

みなさんは、「地球温暖化」と「地震」の関連性についてどう思われますか？

一見、関係ないように思われますが、インターネットで調べると面白いことが載っています。「地球温暖化」と「地震」が必ずしも無関係ではないというのです。

「〇〇特殊鋼勤務の技術者です。地震の専門家ではありませんが、畑を作っており熱膨張の設計をしてい

ます。……」

以下、難しい文章が続きますので要約します。その技術者が言うには、土も僅かながら熱によって膨張するそうです。よく真夏に鉄道の線路が熱によって膨張し、線路同士が押し合うことで、線路が歪むように、地球が暖まることにより、地殻が膨張し、線路同士が押し合い、地震になることは考えられないか？

実際のところ、どうなのかわかりませんが、地球温暖化との関連性については研究が進むにつれ判明してくるでしょう。

いづれにしても、これからの子孫の世代までこの環境を守っていくためには、今の私たちの世代で何ができるかだと思っています。大量にCO<sub>2</sub>を排出しているアメリカ、中国等の新興国は京都議定書に参加してないから、自分たちがいくら頑張っても意味が無いのではないかと。思われる人もいますかと思えます。しかし皆がそう思っている、何もしなければ地球環境は悪くなる一方で、地球の寿命を縮めてしまうばかりです。地球に良いと思うものは何でも良い筈です。ゴミの分別徹底など身近なところから皆で「ECO」しませんか？

6月28日(土)～8月17日(日)

## 盛大に開幕

# 『木原正徳・野口俊文』二人展



向かって左から、小山元彦教育委員長、西條豊致市議会副議長、木原正徳様、足立正則副市長、野口俊文様、吉越隆師美術館運営協議会長

美術館では郷土出身の画家、木原正徳さんと野口俊文さんの現代絵画60点余りを紹介する企画展『木原正徳・野口俊文 二人展 ―郷土出身画家の近作を中心に―』を開催しています。

企画展の初日となった6月28日には企画展の開催を祝い、木原正徳さん、野口俊文さんをはじめそれぞれのご親族の方々、市関係者などを含め約50人が立会い、開会式が行われました。開会式では、足立正則副市長のあいさつに

## ～郷土出身画家の近作を中心に～

続いて、木原さん、野口さん、西條豊致市議会副議長、画家の浦野吉人さんから挨拶をいただきました。

また、テープカット終了後には、『画家二人によるギャラリートーク』を開催し、画家を志したきっかけ、あるいは絵画制作のテーマや技法などについて、作品を前にご本人からお話を伺うことができました。木原さんは、「長女が生まれてから暗い色調から鮮やかな色彩へと絵の色使いが変わっていった。」などの興味深いエピソードを語られ、一方、野口さんからは「自分の作品タイトルの多くに付けられているカルマとは、全てを肯定すること。私の描いた絵は私自身である。」などと、絵に対する熱い想いが語られました。

現在、活躍が目まぐるしい郷土出身画家二人を紹介するこの企画展は、8月17日まで開催しています。ひとりでも多くの市民の皆様にご覧いただけますようご案内申し上げます。

権  
人  
争  
争  
争

## 「思いやりの心」

飯山市体育協会会長 遠山 稔

「頑張れ、あと少しだ、頑張れ」マラソンや駅伝の沿道からの声援。「次の大会には、もっと頑張つて、ひとつ上を目指します」試合が終わったあとの選手の言葉。

「頑張る」ってどういうことなのでしょう。か。「頑張る」ということは、自分の目標に向かって努力する、どうやったら、目標を達成できるかを考えることだと思えます。それでは、「努力」って何ですかと聞くと、ある人は、「それは、他の人よりも、たくさん練習することだよ。人と同じことをやっていても試合には勝てない。だから、たくさん練習することだよ」と言います。

今日の試合は、自分の目標としていた結果がだせなかった。でも次の試合には結果を出そうと考え、練習する。これが「努力」であり、「頑張る」ということではないでしょうか。

選手の皆さんに申し上げます。

「ここまで頑張れたんだつたら、もう少し頑張れるかもしれない。もう少し頑張つてみよう」と。

スポーツには、個人種目と団体種目があります。個人種目で頂点を目指すアスリートにとつて、勝敗は個人の結果となりますが、団体種目は、個人個人のプレーの連携と積み重ねが結果としてでできます。

先日、バレーボールの試合をコートサイドで観戦する機会がありました。サーブを失敗する選手もいました。スパイクを失敗する選手もいました。失敗した選手は、「悪い、悪い、申し訳ない」というような顔をしていました。しかし、どのチームの選手も、失敗した選手の肩をたたいて、声をかけていました。観戦していた私には、何と云ったかわかりませんが、ぎつと「OK、OK、次、頑張ろう」と言っていたのではないかと思いました。

スポーツのすばらしいところは、勝敗だけでなく、相手を思いやる心を育てるといわれますが、特に団体種目は、思いやりの心を育てる格好の種目だと思えます。失敗した選手を責めずに、「失敗することもあるよ、次に頑張ればいいよ」と励ます心、そして、「相手を思いやる心が育つ」これがスポーツのすばらしさだと思います。

スポーツは、個人を育てていくとともに、人と人とのコミュニケーションを育てて行きます。スポーツを通じて「相手を思いやる心」をコートの中だけでなく、コートの外でも経験し、実践することが豊かな心を育て、スポーツによる新たな社会の再構築に寄与するものと思えます。